

# ビワ生育情報

千葉県  
平成27年12月号

## 平成27年11月の気象

平成27年11月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は、第1及び第6半旬が平年より下回ったが、第2～第5半旬は平年より上回った。月平均は14.2℃で、平年より0.9℃、前年より0.4℃高かった。

降水量は、第1及び第6半旬が平年より下回ったが、第2～第5半旬は平年を上回った。月合計は237mmで、平年の165%、前年の354%であった。

日照時間は、第1及び第6半旬が平年を上回ったが、第2～第5半旬は下回った。月合計は125時間で、平年の87%、前年の96%であった。

表1 平成27年11月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	14.5	15.4	16.6	19	20	21	34	24	15
2	16.8	14.9	15.8	42	35	4	16	24	8
3	14.4	13.9	13.9	85	19	1	12	23	32
4	16.0	12.3	11.0	37	25	14	18	23	30
5	13.2	11.6	12.6	40	21	5	12	24	25
6	10.2	11.5	13.1	14	25	24	32	25	21
平均/計	14.2	13.3	13.8	237	144	67	125	144	130

## 1月の作業（花房の発育は次ページ）

ビワは、厳寒期に入ると枝葉の伸長及び根の活動は停滞するが、開花は引き続き進行し、幼果はわずかながら肥大する。本年は、開花の進みが平年より早く、寒害を受けやすいと考えられるため、寒害には十分注意する。1月は春からの本格的な果実肥大に備える追肥時期である。

### 苗木の植え付け

ビワの苗木の植え付けは、発芽直前で根の活動が緩慢な時期が良く、通常は2月中下旬が適期である。枝や根の伸長が始まってからでは、植え傷みが激しく、発芽が遅れるので、天候や苗の発育をみて時期を逃さないようにする。植え付けの準備は早めしておく。

### 寒害対策

ビワの幼果は、-3℃以下の低温に遭遇すると、胚(種子)が凍死し、生育が止まり落果してしまう。蕾あるいは開花中の花は寒害を受けにくいですが、受精後は幼果の発育が進むにつれて凍死しやすくなる。本年の開花の進みは平年より早く(表3)、寒害を受けやすいと考えられる。開花が終了する1月上旬頃からは寒害対策が必要となってくる。

ビワの寒害は大陸性高気圧のもたらす寒波によって引き起こされる。本格的な寒波は1月中旬から3月上旬の間に数回襲来する。この時には、ビワ園を防寒して寒害を回避する必要がある。幼木園では、こも等の被覆資材で樹体を覆う方法、あるいは枝同士を結束する方法が効果的である。成木園では、園内をヒーターで加温して寒害を防止する。火点設置場所の整備と点火及び燃料の準備をしておく。

## 施 肥

時期別の標準施肥量は表2に示した。果実の肥大及び春枝の発芽、伸長のための追肥は、春肥又は実肥と呼ばれ、1月中に施用する。ビワの根は冬期もわずかながら伸長しており、2月下旬には活発になる。春肥はこの時期に合わせて施すのが一般的で、年間施肥量の30%程度を目安に施用する。土壌pHが低い場合には、苦土石灰などの石灰資材を施用し、pH6.0～6.5に矯正する。

表2 ビワの時期別標準施肥量（成分量 kg/10a）

時 期	耕土の浅い園			耕土の深い園		
	窒素	りん酸	加里	窒素	りん酸	加里
9月上旬（基肥）	12	9	9	11	9	7
1月中旬（春肥）	10	9	5	7	8	3
6月上旬（夏肥）	5	4	4	5	3	3
合 計	27	22	18	23	20	13

（千葉県主要農作物等施肥基準より）

### 管理上の留意事項

1. 土壌pHは6.0～6.5に矯正する。
2. 苦土石灰は、化学肥料施用の2週間前に施用し、その後耕うんする。
3. 施肥後は軽く耕うんする。ただし、夏肥施用後は、その必要はない。
4. 有機物は積極的に投入する。有機物の深層施用には必ず完熟堆肥を用いる。

## 樹及び花房の発育

ビワの開花期は表3に示した。

暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月3日で、平年より6日早かったが、前年と同じであった。「大房」が11月13日で、平年より13日、前年より9日早かった。「田中」が11月7日で、平年より7日早かったが、前年より1日遅かった。

開花盛期は、「楠」が11月19日で、平年より10日、前年より1日早かった。「田中」が11月20日で、平年より16日早かったが、前年より3日遅かった。12月1日現在、「大房」は開花盛期に至っていない。

「楠」及び「田中」は開花終期に至っていない。

花房の出蕾が3品種共に平年より早く、11月の気温が高かった影響で、開花の進みは3品種共に平年より進んでいる。

樹体及び花房の生育は良好である。

表3 ビワの開花期（暖地園芸研究所）

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 3	11. 9	11. 3	11. 19	11. 29	11. 20	—	12. 27	11. 30
大 房	11. 13	11. 26	11. 22	—	12. 21	12. 22	—	1. 30	1. 8
田 中	11. 7	11. 14	11. 6	11. 20	12. 6	11. 17	—	1. 10	11. 29

平年：1985年～2014年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>